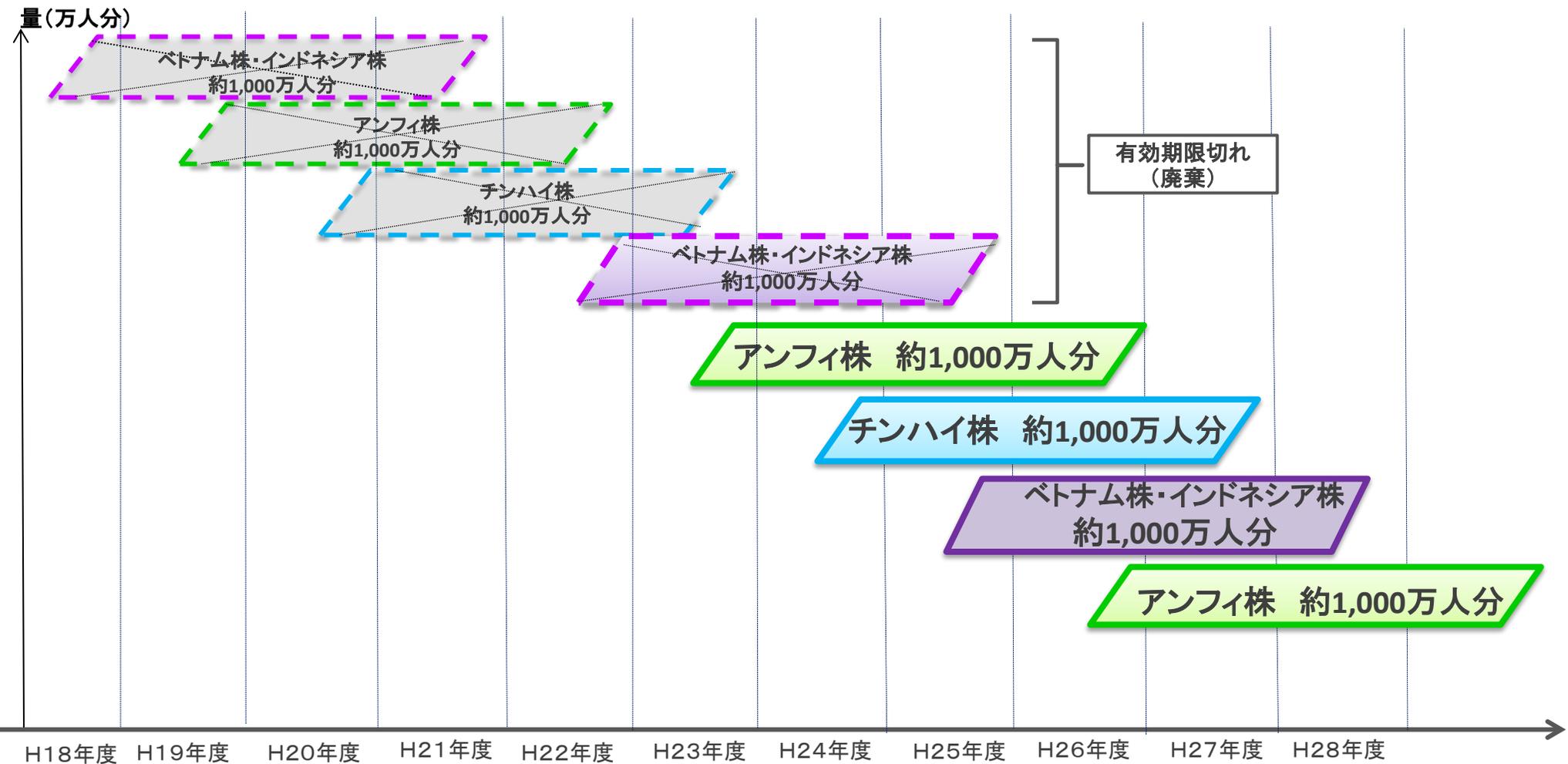


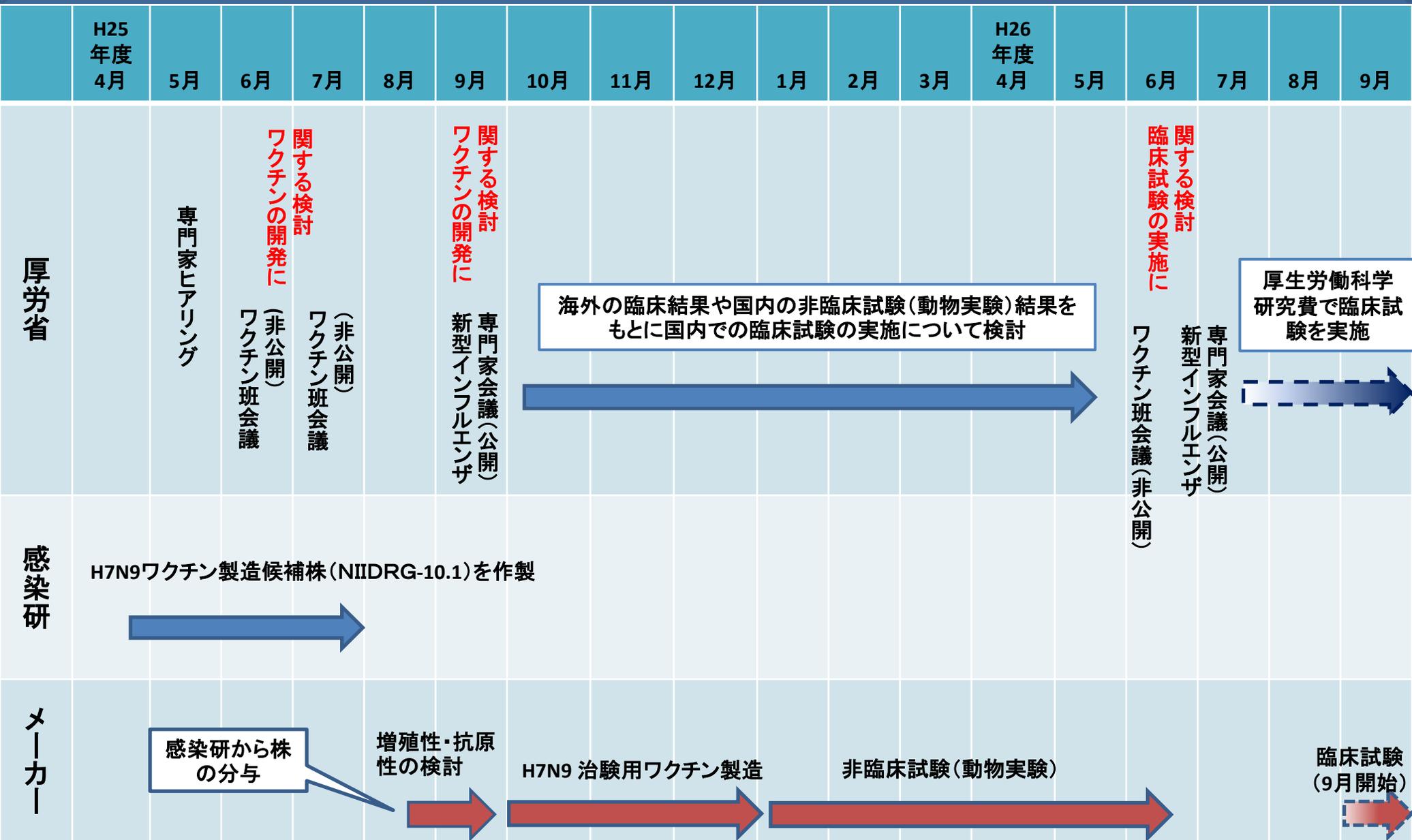
ワクチン、抗インフルエンザ薬等について

平成26年11月7日
厚生労働省健康局結核感染症課

H5N1 プレパンデミック ワクチンの備蓄状況



H7N9ワクチンの開発経緯



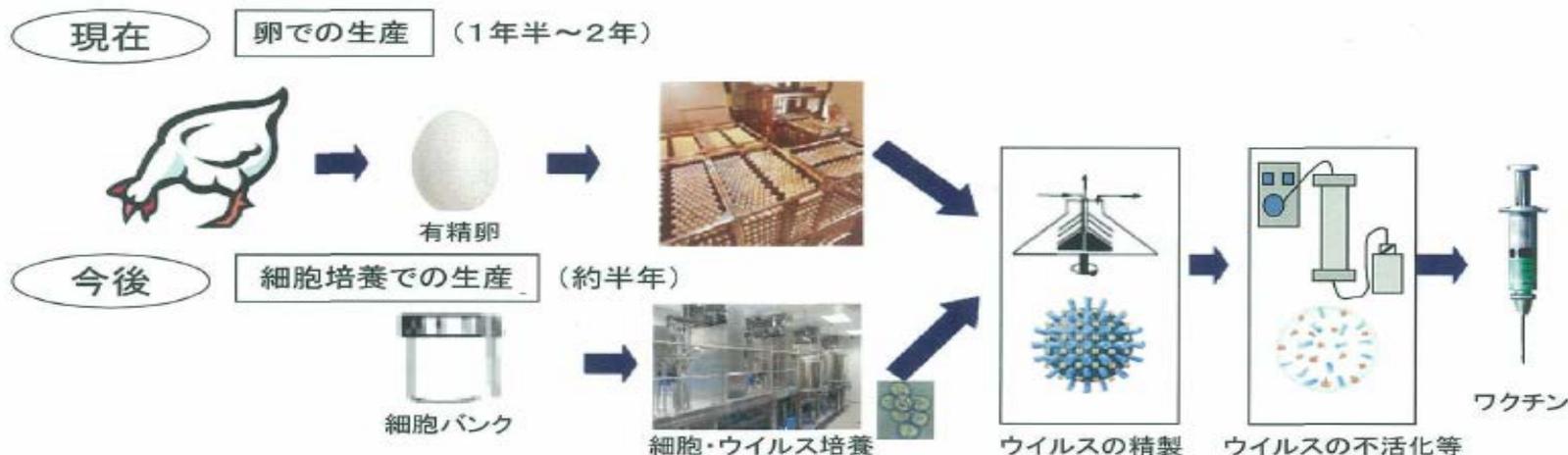
新型インフルエンザワクチン開発・生産体制整備臨時特例交付金」交付事業(第2次分)

＜政府行動計画の記載＞

・国は、新型インフルエンザ発生後、ワクチン製造用のウイルス株が決定されてから6か月以内に全国民分のパンデミックワクチンを製造することを目指し、細胞培養法など新しいワクチン製造法や、経鼻粘膜ワクチン等の投与方法等の研究・開発を促進するとともに、生産ラインの整備を推進する。また、これらのワクチン開発に合わせて、小児への接種用量についても検討を行う。

○細胞培養法を開発することにより、現在の鶏卵培養法では1年半～2年を要する全国民分のワクチン生産期間を約半年に短縮。

○平成25年度までに8,500万人分のワクチン製造設備を整備済み。平成30年度末までに全国民分の製造設備を整備することを目指している。

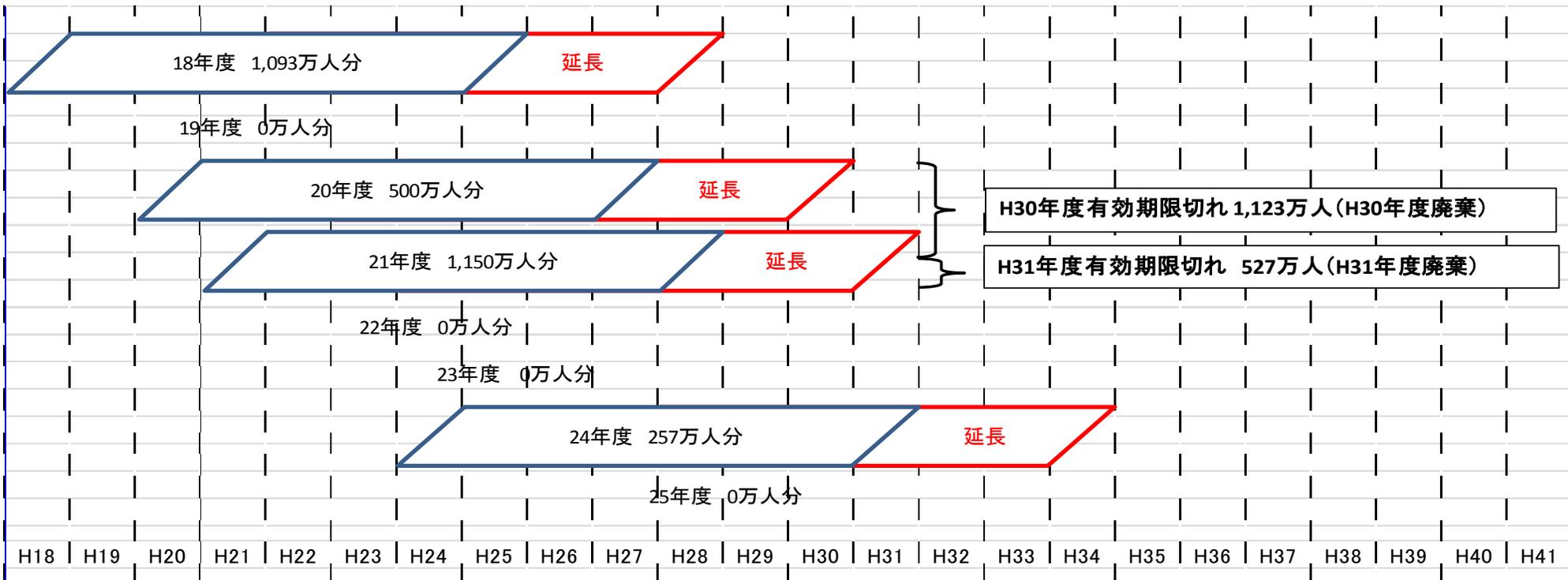


採択事業者名	基準額	ワクチン生産量 (生産後半年の量)	現状
一般財団法人 化学及血清療法研究所	42,182,177千円	5,700万人分以上 (4,000万人分は整備済。残りの1,700万人分は平成30年度中の実用化を目指している。)	H5N1ワクチンが薬事承認取得 プロトタイプワクチンが薬事申請中
北里第一三共ワクチン株式会社	29,959,000千円	4,000万人分以上 (2,000万人分は整備済。残りの2,000万人分は平成28年度第1四半期の実用化を目指している。)	H5N1ワクチンが薬事承認取得 プロトタイプワクチンが薬事申請予定
武田薬品工業株式会社	31,150,403千円	3,300万人分以上 (2,500万人分は整備済。残りの800万人分は平成30年度中の実用化を目指している。)	プロトタイプワクチン及びH5N1ワクチンが薬事承認取得

※プロトタイプワクチンとは、パンデミックワクチンの迅速な開発・製造のため、ウイルスに応じて製造株の変更(H5N1以外の亜型への変更も含む)を想定した模擬ワクチン

抗インフルエンザウイルス薬（タミフル）の備蓄

タミフル3,000万人分備蓄状況



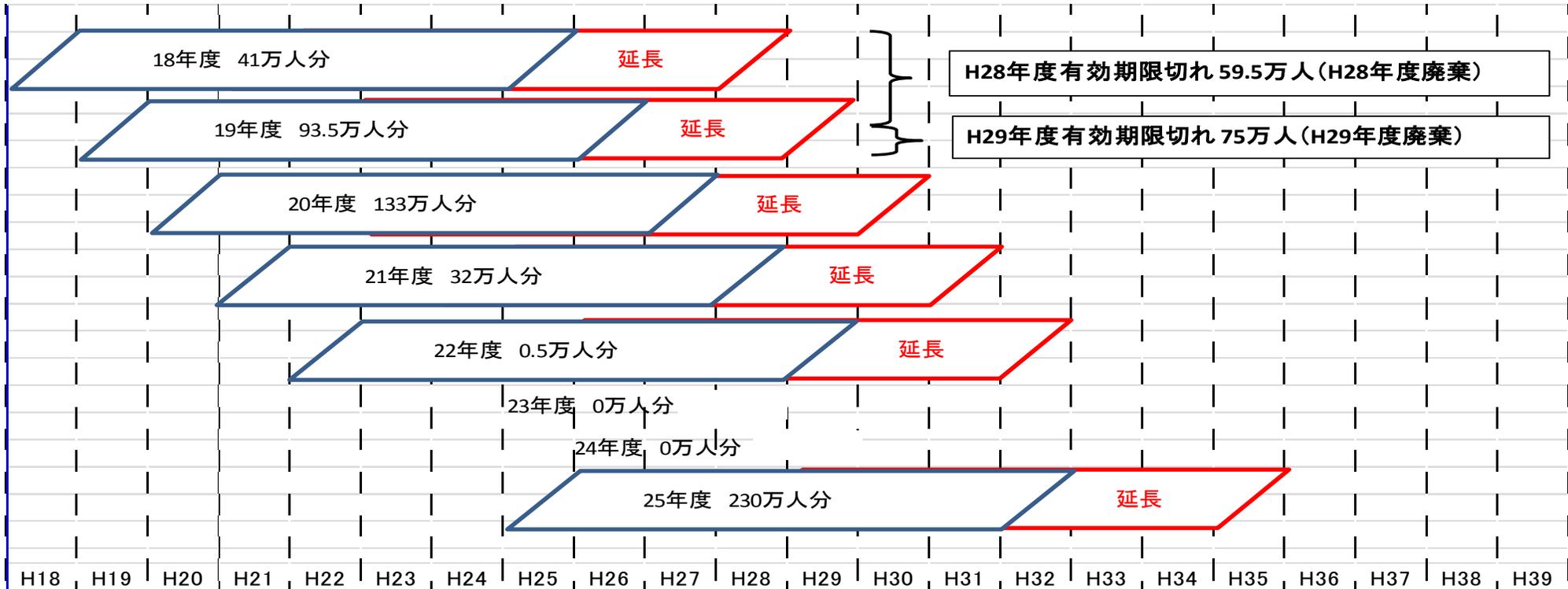
使用期限10年



※ 平成25年7月1日付けでタミフルの使用期限は7年から10年に延長。このため、平成25年度に廃棄予定だった1,093万人分(平成18年度購入)の廃棄が不要となった。

抗インフルエンザウイルス薬（リレンザ）の備蓄

リレンザ530万人分備蓄状況



使用期限10年



※ 平成25年11月25日付けでリレンザの使用期限は7年から10年に延長。このため、平成25年度に廃棄予定だった59.5万人分(平成18,19年度購入)の廃棄が不要となった。